

宝ホールディングス株式会社 第113回定時株主総会 質疑応答の概要

【① タカラバイオグループの今後の事業の方向性について】

Q：タカラバイオグループの今後の事業の方向性は？

A：新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類相当から5類相当に変わったことを受け、新型コロナウイルス検査関連試薬の売上が下がり、加えてライフサイエンス産業における各国の研究開発の市況が低迷している状況にあるが、底を打った兆候も出てきており、試薬・機器事業における次のトレンドをいち早く捉えて、新製品開発のスピードアップを図っていく。

なお、タカラバイオグループでは、海外売上高比率は前年度が63%、本年度も予算ベースで64%と海外の売上の方が大きく、グローバルに活用できる技術をローカル（各地域）の情勢に合わせて対応するといった戦略として「グローバル対応」をとっている。例えば、試薬・機器事業では研究用のカタログ製品が中心であったが、アメリカではOEM製品が売上の約6割を占める状況になっており、用途も臨床用にシフトするなど、各地域の事情に合わせて対応するといった施策をとっていく。

また、もう一方の収益の柱であるCDMO事業についても、一時、新型コロナウイルス関連の受託で伸びたが、それ以外のプロジェクトでも堅調に推移しており、創薬基盤技術、ウイルスベクターの製造法、ゲノム解析技術等を活用して遺伝子医療の分野でもさらに伸ばしていくことで、拡大していきたいと考えている。

【② 人材確保策について】

Q：人材確保策（グローバルな人材確保、国内での人材育成、ベースアップ等）は？

A：まず、国内では、宝ホールディングスにおいては大学院・大学の新卒一括採用を基本としており、宝酒造の工場の技能職の採用に関しては、高校卒のみならず大学卒の学生等も対象として人材確保に努めている。また、専門的なスキルや豊富な業務経験を有する人材については、通年でキャリア採用も行っている。今後も、各事業の戦略やコーポレート部門の課題をふまえた成長・強化領域に必要な人材を計画的に採用していく。

次に、グローバルな対応としては、宝酒造インターナショナルグループにおいて海外駐在経験等のある即戦力人材のキャリア採用を行っている。また、若手社員の宝酒造インターナショナルグループへの配属および海外赴任を含むジョブローテーションにより、グローバルな事業成長を担うことのできる人材を育成している。

また、人的資本投資の観点から、今年度、組合員1人あたり平均1万円のベースアップを実施しており、業績や昨今の急激な物価上昇をふまえ、労使交渉を経て決定した。さらに今年度は、大学院卒・大学卒の初任給について、ベースアップ1万円に加え、5千円の引き上げを行うとともに、それにより社歴の浅い社員の給与額について逆転が生じないようにする対応も併せて行った。

【③ 株価対策について】

Q：株価向上のための具体的な対策は？

A：株価は、株式市場からの当社に対する評価と考えており、今後も収益性や資本の効率性を意識しながら業績を向上させることで企業価値を高めていきたいと考えている。

具体的には、「宝グループ中期経営計画2025」において重点戦略として掲げているように、まず1点目は「成長・強化領域への投資」であり、例えば、海外事業では海外日本食材卸事業の拠点拡大のための投資、国内事業では製品の安全性や品質の向上のための投資、バイオ事業では研究開発への投資を行っていく。2点目は「宝独自の2つのビジネスモデルの確立」であり、宝酒造・宝酒造インターナショナルグループではグローバルな和酒・日本食を世界に拡大していくこと、タカラバイオグループでは試薬・機器事業やCDMO事業を拡大していくことに注力していく。こうした取り組みを進めながら企業価値の最大化を図っていきたいと考えている。

以 上